

第5学年〇組 道徳学習指導案

指導者 百瀬 初江

- 1 主題名 自分に誠実に 1 - (4) 誠実 明朗
 2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

内容項目1 - (4)は「誠実に、明るく楽しく生活する。」ことをねらいとしており、小学校高学年の段階では、自分に対する誠実さが一層求められている。特にその誠実さが内に充溢するだけでなく、外に向けて発揮されるよう配慮する必要がある。この時期の児童は、正直に陰ひなたなく誠実に行動することの大切さを、頭では分かっているが、ややもするとその弱さから本当のことを言えなかったり利害にとられ誠実に行動できなかつたりすることがある。

そこで、人の心の弱さを共感的に受け止めながら、一人一人の児童が誠実な生き方について、真摯に考えることができるようにしていきたい。

(2) 児童の実態と指導の手立て

本学級は、明るく素直な児童が多く、誰が見てもよくない行為に対しては正しく善悪の判断をし、その不当性を批判することができる。道徳性についての意識調査の結果からも、ほとんどの児童が正直に誠実な行動をすると回答している。しかし、自分に不利になる場面では、「自分のせいではないから。」「悪いのは相手だから。」などの理由で、誠実な行動をすることができないと回答している児童がいる。さらに、実際の場面では、自分に関わることだと周囲の思惑などを気にして、責任を転嫁したり、ごまかしたりする児童もおり、道徳的価値の自覚が十分ではない傾向がある。

そこで、導入と展開後段の価値の一般化の段階で、ねらいとする価値に沿って実施した意識調査を活用し、その結果を見て話し合う場面を設定したい。具体的な意識調査の結果を取り入れながら話し合うことにより、自分自身の問題としてとらえることができるようにする。その中で、真面目で誠実な生き方は、前向きで明るく生活できることであり、自己の向上につながっていくことに気付かせたい。友達や教師の言葉を通して、児童一人一人に「誠実な生き方とは何か」を真剣に考えさせ、ねらいとする価値の内面からの自覚を促したい。

(3) 資料について(資料名「見えた答案」出典 小学校道徳「希望を持って」東京書籍)

本資料は、児童の日常生活に即した場面における主人公の不誠実な行動を扱っている。家族の病気で十分な準備ができないままテストに臨んだ主人公花子は、つい友達の答案を見てしまう。テストは全問正解で返されるが、自分のしたことを考えると、みじめな気持ちになった花子は、もう二度とこんなことはしないと自分に言い聞かせる。

指導に当たっては、「誰にも見つかっていないから。」「全部見たわけではないから。」など自己の行動を正当化しようとする心の弱さと自分の不正をきちんと受け止め、自分を変えていこうとする花子の気持ちを話し合わせ、ねらいとする価値へ迫りたい。

本資料では、主人公は自分の不誠実な行為を誰にも話していないが、児童一人一人に「自分だったら、どのような行動をしていこうとするのか。」を考えさせる場面を設定し、道徳的態度を養っていきたい。

3 本時の学習

(1) ねらい

正直で陰ひなたなく、常に明るく誠実に行動しようとする態度を養う。

(2) 準備・資料

場面絵、セレクトカード(立場分け用)、ワークシート

(3) 展開

時間	主な活動・発問	予想される児童の反応	教師の支援と評価
0	1 「陰ひなたなく行動しているかどうか」についての意識調査の結果を見て話し合	<ul style="list-style-type: none"> ・正直にしている人が多いので、いいと思う。 ・自分と同じ考えの人がいたので安心した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意識調査の結果をもとに感想を話し合い、ねらいとする価値への方向付けを図る。 ・自分のこととして授業に参

5	<p>う。</p> <p>2 資料「見えた答案」を読んで話し合う。</p> <p>○テストを受ける直前の花子は、どんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○よし子の答案が見えたとき、花子はどんなことを考えたでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうしよう。あまり勉強できなかった。 ・ いつもいい点数を取っているから、悪い点は取れない。 ・ よかった。これで、できない問題が解ける。 ・ 誰も気付かないから大丈夫だと思う。 ・ 全部見たわけではないから、そんなに悪いことをしたわけではない。 ・ やった。いつもどおりに100点が取れた。 ・ 見たのはちょっとだけだし、ほとんどは自分で解いたから悪くない。 ・ このまま黙っていよう。 ・ 今更、正直には言えない。 ・ 自分が、カンニングしてしまったことは確かだ。 ・ 本当は満点ではないことは自分自身がよく知っている。 ・ 自分に正直にしないとすっきりしないし、気持ちよく生活できない。 ・ 今からでも、先生に正直に話そう。 	<p>加できるように促していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料名の「見えた」と「見た」との違いに着目し、自分の心に誠実に生きることの意味に触れる。 ・ 母親の看病や食事の用意で勉強ができなかった事情を踏まえて、花子の心情を共感的に受け止める。 ・ 正しい判断力が鈍っていた花子の状態を押さえて話し合うように助言する ・ 自分を正当化しようとする花子の心理を人間のもつ心の弱さとして押さえ、中心発問へのステップとする。 ・ 「だれも気付かないからだいじょうぶ。」という考えと「自分の心がすっきりしない。」という考えに立場分けする。 ・ セレクトカードを活用し、一人一人の考えを表示できるようにする。 ・ それぞれの理由を話し合うことにより様々な価値観に触れるようにする。 ・ 補助発問として「自分だったらどうするか」と問いかける。 ・ 「今からでもいいから正直に話そう」とする児童の考えを引き出したい。 ・ 意識調査の結果を見て、これまでの自分を振り返って考えるように助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評 正直に陰ひなたなく生活しようとする気持ちをもつことができたか。 (ワークシート・発表)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誠実な生き方が明るい生活につながった体験について話し、実践に向けての意欲を高める。
20	<p>◎先生から満点の答案が返ってきたとき、花子の心の中にはどんな考えが浮かんできたでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ やった。いつもどおりに100点が取れた。 ・ 見たのはちょっとだけだし、ほとんどは自分で解いたから悪くない。 ・ このまま黙っていよう。 ・ 今更、正直には言えない。 ・ 自分が、カンニングしてしまったことは確かだ。 ・ 本当は満点ではないことは自分自身がよく知っている。 ・ 自分に正直にしないとすっきりしないし、気持ちよく生活できない。 ・ 今からでも、先生に正直に話そう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「だれも気付かないからだいじょうぶ。」という考えと「自分の心がすっきりしない。」という考えに立場分けする。 ・ セレクトカードを活用し、一人一人の考えを表示できるようにする。 ・ それぞれの理由を話し合うことにより様々な価値観に触れるようにする。 ・ 補助発問として「自分だったらどうするか」と問いかける。 ・ 「今からでもいいから正直に話そう」とする児童の考えを引き出したい。 ・ 意識調査の結果を見て、これまでの自分を振り返って考えるように助言する。
38	<p>3 これまでの自分を振り返って考えたことをワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで自分は「少しだけならいいことをしてもいいかもしれない。」とか「ごまかしてもいいのではないか。」と考えていたけど、正直にすると自分自身の心がすっきりすることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意識調査の結果を見て、これまでの自分を振り返って考えるように助言する。
42	<p>4 教師の話を書く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 誠実な生き方が明るい生活につながった体験について話し、実践に向けての意欲を高める。

4 実践化への配慮

- ・ 学級活動で、構成的グループ・エンカウンターの手法を取り入れたエクササイズを実施し、正直に明るく生活することの心地よさを体感できるようにする。
- ・ 日常生活において、誠実な行動ができた場面をとらえて称賛することにより、道徳的実践の継続を促していく。